

2022年(令和4年)1月7日(金曜日)



千住金属工業

千住金属工業は、関心が高まるカーボンニュートラルの実現に貢献するため、はんだ事業の観点からさまざまな提案を始めた。低温はんだの優位性に着目し、低温はんだに対応したフローソルダリング(DIP方式)の製造工法やはんだ槽、はんだ製品を開発。

リフロー炉において、さらなる低消費電力



角屋敷 執行役員

力化、窒素使用量の削減などを図ったSNR-1 GTIIの市場投入など、カーボンニュートラルに向けた提案活動も増えている。顧客「リフロー炉」として、

水準を維持するとみて54%、電力量を35%、窒素使用量も装置の入り口と出口部分にラブリンスゾーンを設け、窒素カーテン機構を加えることで、炉内

解消されれば売り上げは伸びる。カーボンニュートラルに対する関心は高く、当社の低温はんだの提案に引き合

「当社のはんだ付け材料と装置をトータルで提供している。材料と装置の両面からカーボンニュートラルの実現に向けた提案やソリューションの提供を拡充

カーボンニュートラルに貢献

環境調和型リフロー炉投入

角屋敷敏丸執行役員「2022年以降は省エネ性や生産性の追求した。」と期待

1年後は半から需要が戻り、受注が一気に増えた。一方で当社も部品や部材不足の影響を受けて、装置の受注残を抱える状態が続いている。22年も需要は高

新たに市場に投入したリフロー炉は、10年からの販売の強化により、安定時の消費電力量をSNR-1 GTI比約10%削減

省エネ性ではリフロー炉内雰囲気循環効率が向上させ、断熱構造の強化により、安定時の消費電力量をSNR-1 GTI比約10%削減

「当社にはんだ付け材料と装置をトータルで提供している。材料と装置の両面からカーボンニュートラルの実現に向けた提案やソリューションの提供を拡充する」と述べている。